

区政改革にあたっての問題意識

<練馬区の現状・特徴>

- かつては近郊農村地帯。戦後宅地化が進み、ほぼ一貫して人口が増加し、現在 71 万人に
- 全体として、みどり豊かな環境と都心に近い利便性が両立する住宅都市。都や区部平均に比較して年少人口比率が高く、ファミリー層が多い
- 都心部に比べて鉄道や道路など都市基盤が未整備の地域がある

<将来の見通し 10~30 年後>

- 人口は 72 万人をピークに 2021 年ごろから減少に転じるが、30 年後も 68 万人超と推計
 - ・高齢者人口は増大。30 年後は現在より 4 万人増加し 19 万人に。
⇒膨大な介護需要
 - ・生産年齢人口は 6 万人減少し 41 万人に⇒税収減に
 - ・年少人口は 1 万 3 千人減少し 7 万 5 千人に⇒少子化対策が必要。女性の就労率が上昇すれば、人口が減少しても教育保育ニーズは増加
- 社会保障費の増、施設の老朽化に伴う改修改築需要の増大等により 10 年後には極めて厳しい財政状況に



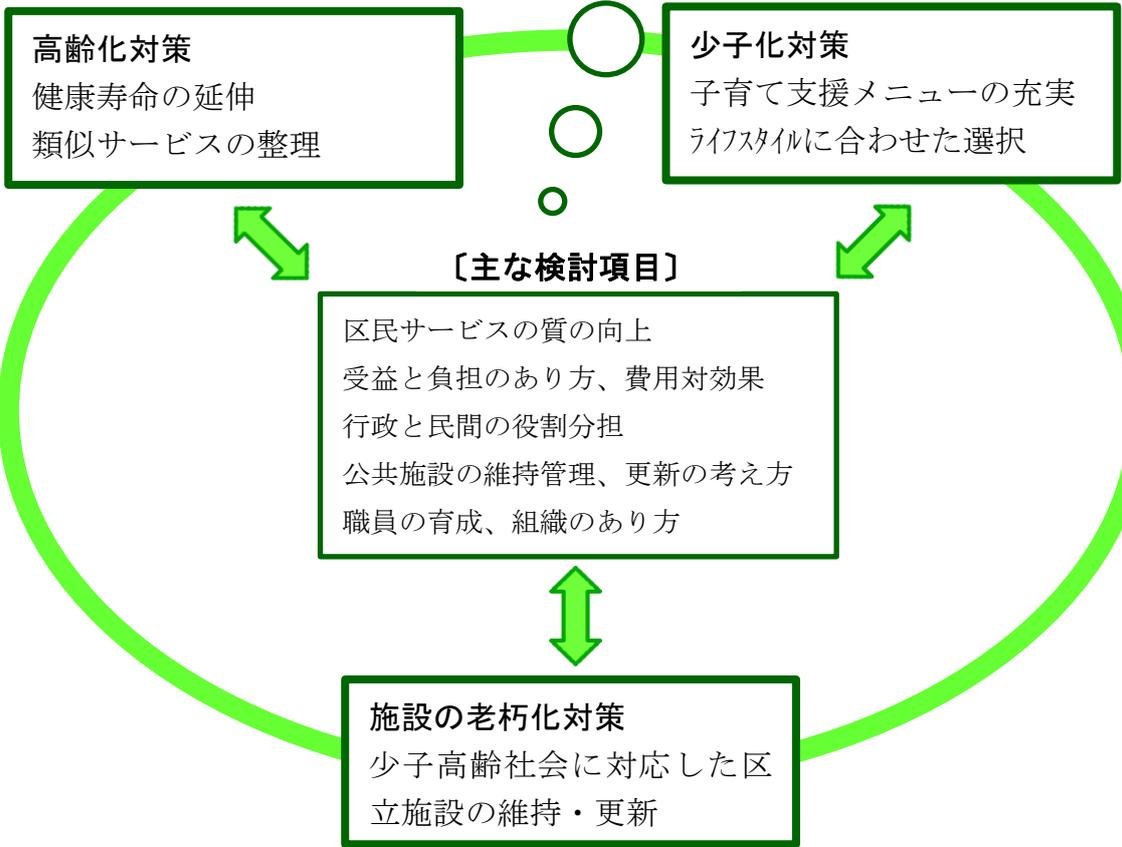
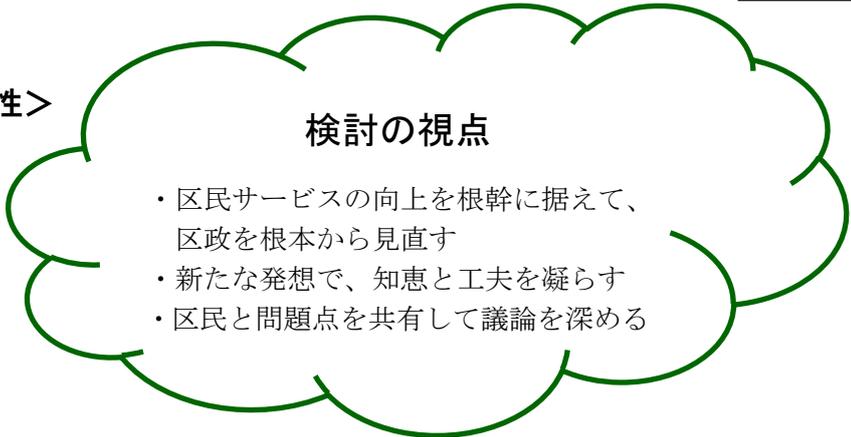
<今後の課題>

- 高齢者人口の増大に伴う介護・医療のニーズの膨張と、保育所待機児童など保育ニーズの増大が同時に進行。
- 当面人口増が続き、区内の地域によっても人口増減にばらつきがある。現在のニーズに応えつつ、将来の人口構成の変化を見通して対応していく必要がある。
- これまで人口増が続いてきたため、近い将来はじめて人口減少問題に直面することになる。
- 都心区に比べて都市基盤整備が遅れているため、今後も将来を見通したまちづくりは区政の重要な課題。
- 区の自治を充実するための特別区制度のあり方など



これまで練馬区政が経験したことのない
「未知の時代」「困難な局面」への対応が
迫られている

<区政改革の方向性>



新しい成熟都市の実現

たとえば・・・

- 「行政」のイメージを一新する区民本位の区役所に
- 一人一人のライフスタイルに合わせて生活を楽しめるまちに
- 高齢になっても健康で活動的に暮らせるまちに

⋮